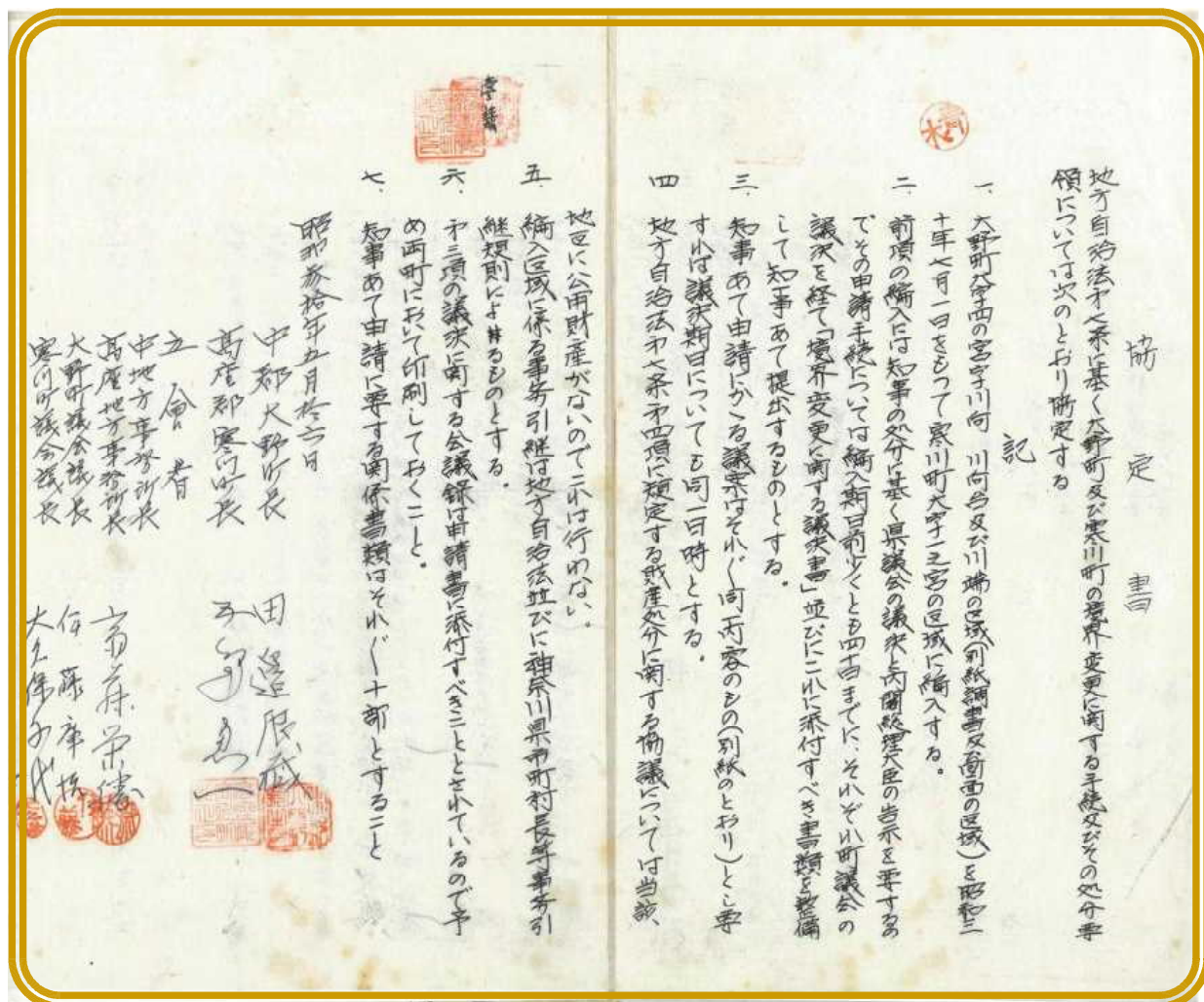


寒川文書館だより

Vol. 17



大野町との境界変更に関する協定書（昭和30年）

■ 第17号目次 ■

資料紹介「大野町との境界変更」・・・・・・・・・・ 2
 阪神淡路大震災20年 記憶を伝える・記録を守る・・・・・・ 3
 企画展「50年前の寒川」・・・・・・・・・・・・・・ 4
 茅ヶ崎市との広域連携事業・・・・・・・・・・・・・・ 6
 文書館 最近のできごと・・・・・・・・・・・・・・ 7

第17号
 2015.3.31
 寒川文書館

昭和30年(1955)5月16日、寒川町と中郡大野町(現・平塚市)は境界変更に関する協定書の調印を行った。相模川の東側にあった大野町四之宮の飛び地約20ヘクタールを、7月1日をもって寒川町に編入するという内容である。

この飛び地は「川向新畑」といわれ、そのルーツは江戸時代初期にまでさかのぼる。もともとは相模川の洪水による流路変更で川の東側になった土地とされる。寛文元年(1661)ごろに起きた隣接する一之宮村・田端村との争論を経て、境界が確定した。延宝4年(1676)には江戸の商人がこの地の開発を代官に願い出たが、村民たちの反対の訴えにより却下され、以来、四之宮村が野銭を幕府に納めることで、同村の芝間(=秣場:田畑の肥料や牛馬の飼料を採る共有地)として利用されるようになった。さらに元禄11年(1698)、この芝間の一部を畑に開発したいとの願書が出された。これには名主以下112名の村民の名が書き連ねられており、この開発が村の総意であったことがわかる。

(『平塚市史』9 通史編)

四之宮の村民が飛地にある畑や芝間へ行くには渡船を利用した。「新編相模国風土記稿」には「渡船二艘を置いて耕作の便とす」とあり、「皇国地誌」にも「渡船三艘ヲ以テ往復ニ便ナラシム 但作渡ニシテ修繕民費ヲ以テス」とある。進藤文夫著『相模川の渡船』には、古老の聞き書きとして次のようなことが記されている。143軒が権利を持っており、船は共有で、船頭は2人ずつ交代で勤めた。川向この畑を耕すために、対岸の目久尻川合流点へまっすぐ船をつけた。渡船の終わりは明治末か大正初め頃で、畑は寒川に売った。

この土地を売却した年代は明らかではないが、

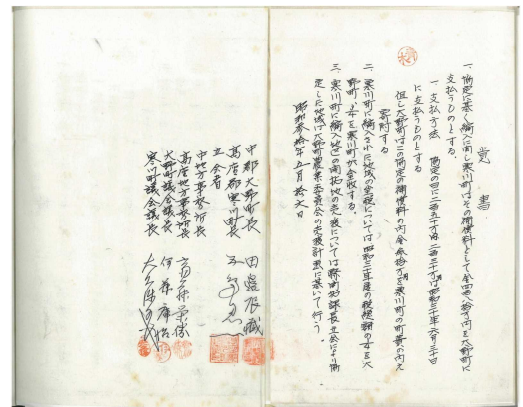
昭和13年(1938)、この地が化学繊維を製造する昭和産業一之宮工場の一部となったことで、四之宮の人の関与はほとんどなくなったと考えられる。昭和産業は昭和17年に海軍に買収され、翌年、相模海軍工場となった。戦後はいくつかの民間の工場に払い下げられたが、その一つに寒川町農業協同組合の経営する澱粉工場があった。

寒川町がこの土地の獲得に乗り出した背景には、相模川を境界にして地理的に整合性を持たせようとしたことや、固定資産税の増収をもくろんだことがある。両町が交渉した結果、寒川町は大野町に対し補償金として480万円を支払い、逆に大野町は寒川町に30万円を寄付するという内容で合意が成立した。

かくしてこの飛び地は寒川町に編入され、一之宮と田端の一部となった。この土地に住んでいた7戸、35人は大野町民から寒川町民に変わった。大野町もこの翌年、平塚市に合併された。

昭和32年、旭ファイバーグラス湘南工場が誘致されたのをはじめ、既存の工場に加えて新たな工場がこの地に建ち並ぶようになった。この南側に隣接して昭和39年に造成された寒川工業団地とともに、寒川の工業化の礎を築くことになったのである。

(高木秀彰)



補償料支払いに関する覚書(昭和30年、寒川町公文書)

防災講演会 阪神淡路大震災20年 記憶を伝える・記録を守る

平成27年2月1日(日)、寒川総合体育館において、寒川町危機管理課の「防災講演会」と文書館の「資料保存活用講演会」の共催事業として、「阪神淡路大震災20年 記憶を伝える・記録を守る」を開催しました。会場には約180人の参加があり、熱心に耳を傾けていました。

講師にお招きしたのは吉原大志氏。歴史資料ネットワークの運営委員を長年務める一方、人と防災未来センター資料室を経て、現在は東京文化財研究所にお勤めで、文化財や歴史資料の防災や危機管理を専門的に研究していらっしゃいます。

その幅広い経験からお話しいただいたキーワードは、「被災資料」と「震災資料」という2つの考え方です。前者は、震災前から存在して、被害を受けた資料で、被災地の「これまで」を知るためのもの。後者は震災を契機に発生した資料で、被災地の「現在」と「これから」を知るためのもの。どちらもし

っかりと保存し、後世に伝える必要があり、その担い手が不可欠であると、具体例を挙げながらお話しいただきました。

寒川町が定めた地域防災計画には、「文化遺産の保護」、「災害についての記録を残す」という項目があり、表現は異なるものの、「被災資料」「震災資料」と同じ考え方が明記されています。その先進性を高く評価していただきましたが、いざというときにしっかりと資料の保全ができるよう、その体制づくりの必要性を改めて認識させられた講演でした。



会場の様子



講師の吉原大志氏

シリーズ 寒川の先人たち

第13回：幕末維新时期の英語教師 —春田与八郎直温—

中瀬村最後の領主です。幕末維新时期、最先端の学問であった英語を学び、文久元年(1861)には幕府の教育機関である蕃書調所(のち開成所、東京大学の前身)の英語教員となりました。そのかわり、横浜で発行されていた英字新聞の翻訳にも携わっています。

明治維新後は静岡に移住し、駿府城内に開校した静岡学問所の教員をつとめました。この静岡学問所はわずか数年間で廃止されましたが、当時、国内最高水準の教育が行われた学校として有名でした。

詳しくは、拙稿「旗本たちの幕末維新一中瀬村領主・春田与八郎を中心の一」(『寒川町史研究』27号)をご覧ください。(椿田有希子)



静岡県庁のそばにある静岡学問所跡碑

1964 50年前の寒川

昭和39年(1964)は、東海道新幹線の開業や東京オリンピックの開催など、日本が大きく変化する節目の年でした。

寒川町でも、工業団地の造成など、その後の寒川を左右するさまざまな出来事がありました。

そのような一年を、公文書や写真、資料などで振り返ります。



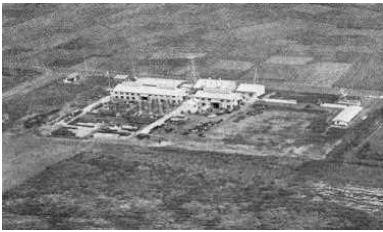
▲寒川町から選抜された五輪聖火ランナー(社会教育課旧蔵)

会期：平成26年9月14日(日)～開催中

※平成27年2月28日までの予定でしたが、好評につき5月末まで会期を延長します。

寒川工業団地の造成完了

昭和34年(1959)、田端で造成が始まり、昭和39年4月に工事が完了しました。



◀昭和40年の様子(『ユシロ30年の歩み』ユシロ化学工業株式会社、昭和50年)

寒川調圧水槽の完成

横浜市・横須賀市両水道局が共同で設置した送水施設です。

昭和39年3月に完成しました。

昭和45年(1970)頃の寒川調圧水槽(当館蔵)



相模川砂利採取の禁止

相模川の砂利採取は昭和30年代に最盛期を迎えますが、昭和39年3月末日をもって採取が禁止されました。

砂利採取禁止の看板▶(『相模川の砂利』神奈川県、昭和41年)



茅ヶ崎北陵高校の開校

昭和38年3月、「茅ヶ崎第二高等学校(仮称)建設期成会」が設立され、翌年4月、茅ヶ崎市下寺尾に開校しました。

高校設置に関する公文書▶(寒川町蔵)



寒川さくら幼稚園の開園

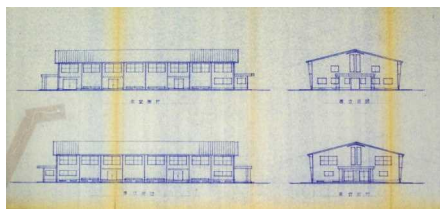
寒川で2番目にできた私立幼稚園。昭和39年4月開園。



▲昭和40年当時の園舎(岡田 三枝芳一さん蔵)

寒川中学校体育館の完成

昭和39年、町民待望の寒川中学校体育館が完成。9月9日に落成式が行われました。



▲体育館立面図(「体育館新築工事確認通知書」所収、寒川町蔵)

旭小学校プールの落成

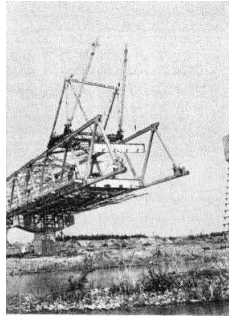
旭小学校の初代プールは、昭和39年に完成しました。



▲昭和30年代の旭小プール授業(岡田 並木君子さん蔵)

東海道新幹線の開業

東海道新幹線は昭和39年10月に開業しました。寒川町内では倉見地区を2.2kmにわたり東西に横切っています。寒川付近の工事は昭和35年1月開始、同37年4月竣工しました。



▲建設中の
新幹線相模川橋脚
（『東海道新幹線工事誌』
（社）日本鉄道施設協会、
昭和40年）



◀試運転中の新幹線
（道路課旧蔵）

同年6月からは試運転が実施されています。

東京オリンピック

昭和39年10月開催の第18回オリンピック東京大会では、開催に先立って実施された聖火リレーにおいて、寒川町から選出された8名の走者が、寒川町内小中学校児童・生徒の声援に励まされつつ、茅ヶ崎市内の国道一号線を走りました。



▲白バイ先導のもと、
国道一号線を走る聖火リレー走者
（一之宮 竹井龍一郎さん蔵）

懐かし映像上映会 「50年前の神奈川」

毎年11月3日の開館記念日に、総合図書館と共催で、懐かしい映像の上映会を開催しています。

第8回目となる平成26年度は、企画展の関連事業として、「50年前の神奈川」というテーマで、神奈川県立公文書館から「神奈川ニュース 県政版 昭和39年」を借用して上映しました。

江の島の東京オリンピックヨット競技会場や、完成直前の城山ダムの映像などに、参加者からは「若い頃を思い出した」「神奈川のオリンピックのことが分かった」等々の感想が寄せられました。



～図書館ミニ展示～

「1964 東海道新幹線と東京オリンピック」



同じく企画展の関連事業として、総合図書館のミニ展示が、平成26年9月25日（木）から10月23日（木）まで、図書館1階の雑誌コーナーで開催されました。

東海道新幹線開業や東京オリンピックなど、昭和30年代後半の世相に関する本を展示し、その場で借りていただけるようにしました。ここで興味を持った方に、4階の文書館展示コーナーまで足を運んでいただけるよう、脇には企画展のポスターを掲示しました。

ミニ展示 秘書担当と共同開催

平成26年度のミニ展示は、企画政策課秘書担当の事業とタイアップして2回開催しました。はじめて文書館から飛び出して展示を行い、多くの方々に公文書をはじめとする資料の大切さをアピールすることができました。

町表彰式のあゆみ

平成26年11月1日（町民センターホールロビー）
平成26年11月2日～12月28日（文書館）

寒川町表彰式が50回目を迎えるのを記念して、第1回表彰式の起案文書や、これまでの全49回の受賞者名簿と記念写真をパネルにしました。初日は表彰式の会場入口にパネルを貼り出し、翌日から文書館のエレベーター前へ動かしました。



末年のできごとー公文書が語る現代史ー

平成27年1月5日（町民センター展示室）
平成27年1月6日～2月28日（文書館）

新春恒例企画。過去の末年には寒川で何があったのか、昭和6年から平成15年まで、12年おきに公文書や写真で紹介するもので、今回はまず賀詞交換会の会場に掲示し、翌日から文書館へ移しました。



茅ヶ崎市との広域連携事業

平成25年8月、茅ヶ崎市と寒川町は「広域連携に関する基本的な考え方」を策定し、両市町の住民福祉の向上をはかることになりました。そこに位置づけられた16の事務事業のうちの一つが「歴史・文化財等普及事業」です。茅ヶ崎市は社会教育課、寒川町は教育総務課と寒川文書館が担当することになり、初年度である平成26年度は「考古学講座」を開催しました。

講座（全3回）のテーマは「下寺尾官衙遺跡群を学ぶ」。
1回目は4月26日、茅ヶ崎市教育委員会の大村浩司氏に、高座郡衙などこの遺跡群の概要について解説していただきました。2回目は5月10日、かながわ考古学財団の高橋香氏に、寒川町に属する岡田南河内遺跡と大曲五反田遺跡の解説とともに、隣接する七堂伽藍跡についても教えていただきました。3回目は5月24日、2つの講演をふまえての現地踏査でした。延べ102名の参加があり、多くの方々にこの遺跡群を知っていただくことができました。

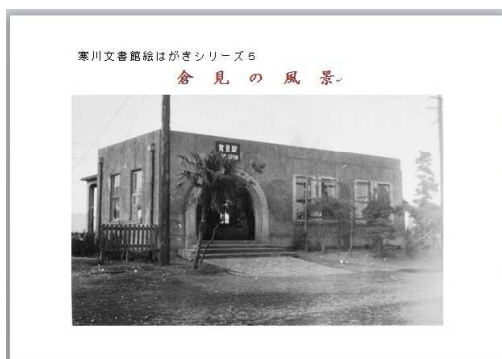
平成27年度は連携事業として、浜降祭に関する展示や講演会も検討しています。ぜひご参加ください。



考古学講座のようす（平成26年5月10日）

文書館 最近のできごと

■絵はがき集「倉見の風景」を発行 9月30日(水)



「寒川文書館絵はがき集」の第5弾として発行したのは「倉見の風景」です。昭和30～50年代に撮影された倉見地区の風景写真を8枚組の絵はがきに仕立てました。倉見神社、児童館、旭小学校などの建物、東海道新幹線や街角の様子など、地域の特色のある写真を選びました。封筒の中には、撮影地点の地図や現況写真などを記した解説書を添えています。今後は、他の地区でも同様のものを作成する計画です。

■全史料協全国大会に出席 11月13日(木)・14日(金)



全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の全国大会が福岡市の九州大学で開催されました。この協議会は全国の公文書館など資料の保存利用を行う機関の集まりで、寒川文書館は広報・広聴委員会事務局として、会誌・会報の編集などを行っています。今年の大会テーマは「アーカイブズ資料の広範な公開をめざして」。記録資料のデジタル公開などをめぐって活発な意見が交わされました。

■井上有一座談会 12月9日(火)



井上有一(1916～1985)は国際的に高い評価を受けた書家で、寒川中学校教頭、旭小学校校長を歴任した教員でもありました。茅ヶ崎市美術館において、藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町美術展「井上有一 湘南の墨跡」が開催されたのを記念し、旭小学校時代に井上の下で教員として勤めた3人の先生方に、教員としての井上有一のエピソードを語っていただく座談会を行いました。その成果は『寒川町史研究』第27号に掲載します。

■寒川中学校体験学習 1月30日(金)



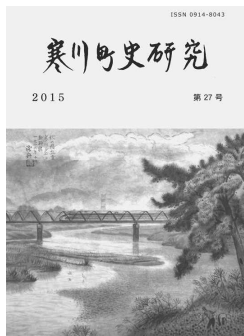
寒川中学校2年生3名が、体験学習のため来館しました。総合図書館での実務体験が研修の主な目的でしたが、文書館にも来て、施設を見学してもらいました。まずは文書館の役割や所蔵資料の概要を説明したあと、収蔵庫内を案内し、寒川中学校の開校当初の写真、体育館建設に関する公文書、校歌制定に関する資料などを見てもらいました。60年以上も前の古い記録を食い入るように見つめていた生徒たちの姿がたいへん印象的でした。

今後の事業予定

■平成26年度の刊行物

平成26年度末に次の2点の刊行物を発行しました。
5月1日(金)から文書館において頒布を始めます。ぜひお手元に置いてご活用ください。

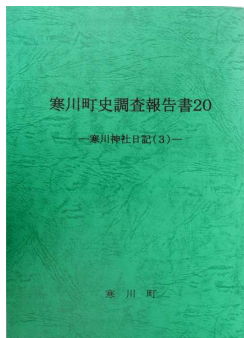
寒川町史研究 第27号



特集は「下寺尾官衙遺跡群を学ぶ」。
茅ヶ崎市との広域連携事業で実施した遺跡群にまつわる講演会を収録しました。他に、幕末の・旗本や大神塚発掘に関する研究ノート、書家・井上有一にまつわる座談会など、地域の歴史情報についての話題が満載です。

(500円、送料215円)

寒川町史調査報告書20「寒川神社日記(3)」



寒川神社が毎日書き綴ってきた日記のうち、今回は明治15年から18年までの4年分を活字にしました。国府祭への対応、雨乞いの祈禱など、地域の信仰や行事と寒川神社との関係がよくわかります。

(500円、送料300円)

■平成27年度の事業予定

平成27年度は次の事業を実施する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

- 古文書講座(全6回。5～10月の第4土曜)
- 資料活用講座(全4回。11～2月の原則第4土曜)
- 企画展「浜降祭」、「銃後のくらし」など(予定)
- 懐かし映像上映会(11月、図書館と共催)

編集後記

「寒川文書館だより」第17号をお届けします。平成26年9月から企画展「1964 50年前の寒川」を開催しました。東海道新幹線や東京オリンピックなど、日本中が盛り上がった昭和39年、寒川においても工業団地の造成など、その後の町のあり方を左右するできごとがありました。この展示を本号で記録にとどめました。他にも防災講演会や茅ヶ崎市との広域連携など、多彩な事業を展開できた一年となりました。

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス
神奈中・相鉄バス 海老名駅～寒川駅線
「図書館文書館前」下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第17号

平成27年3月31日

編集・発行/寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp